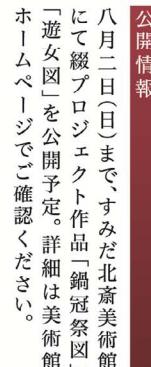


頭に鍋をかぶった女たちが、神主のもとへ。「一曲一隻の屏風「鍋冠祭図」のユーモラスな情景は、滋賀県筑摩神社の今も続く祭礼を描いたもの。女が前年に襦を重ねた男の数だけ鍋をかぶるという日本三大奇祭の一つだ。この世のあらゆるものに関心を抱く北斎は、晴れの日に集う田舎の女性を、活き活きと描いた。ほつれた髪や、裾の乱れはあか抜けないが、どこか色気が漂う。手で顔を隠し正面を向く女は、鍋の数をごまかしているのか。楽しい祭の賑わいがよみがえる。

日本の美を、人へ、

未来へ、伝えていく。



詳細は、公式サイトでご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

Canon

キヤノン株式会社 〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2 global.canon

北斎、日本に帰る

『鍋冠祭図』 葛飾北斎筆

綴プロジェクト作品
(高精細複製品)

Vol. 11

綴TSUZURI
文化財未来継承プロジェクト

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。今回、フリーア美術館所蔵で門外不出の葛飾北斎の肉筆画13点の複製品を制作、里帰りした作品は墨田区のすみだ北斎美術館に収蔵されます。日本では観られない貴重な作品を身近に鑑賞する機会を提供していきます。

庶民の暮らしを描く「鍋冠祭図」は、フリーア美術館のコレクションでもユニークな作品です。高価な絵具や金粉を贅沢に使っていることから、裕福な者の注文で描かれたのでは、と考えられています。当時の祭と人々の姿を鮮やかに残す貴重な作品を、高精細複製品で、日本のみなさまにもじっくりとご覧いただきます。



なべかんむりまつり
綴プロジェクト作品 鍋冠祭図 葛飾北斎筆
原本所蔵・スミソニアン協会フリーア美術館 寄贈先：墨田区（收藏先：すみだ北斎美術館）
Facsimiles of works in the collection of the Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, D.C. : Gift of Charles Lang Freer, F1904.177.